

横浜市立市民病院外科専門研修プログラム

1. 横浜市立市民病院外科専門研修プログラムについて

本研修プログラムの目的と使命は以下のとおりです。

- 1) 専攻医が医師として必要な基本的診療能力を習得すること
- 2) 専攻医が外科領域の専門的診療能力を習得すること
- 3) 上記に関する知識・技能・態度と高い倫理性を備え、患者から信頼され、標準的な医療を提供でき、患者への責任を果たせる外科専門医となること
- 4) 専攻医が標準的かつ包括的な外科医療の提供を通じ、国民の健康・福祉に貢献すること
- 5) 外科領域全般からサブスペシャリティ領域（消化器外科、心臓血管外科、呼吸器外科、乳腺外科）の専門医取得へと連動すること

2. 研修プログラムの施設群

横浜市立市民病院と埼玉医科大学国際医療センター、松島病院により専門研修施設群を構成します。本専門研修施設群では61名（本プログラムでは14名）の専門研修指導医が専攻医を指導します。

3. 専攻医の受け入れ数について

本専門研修施設群の3年間NCD登録数は8,262例で、本プログラムの専門研修指導医は14名のため、本年度の募集専攻医数は3名です。

4. 外科専門研修について

- 1) 外科専門医は初期臨床研修修了後、3年（以上）の専門研修で育成されま

す。
□ 3年間の専門研修期間中、基幹施設または連携施設で最低6か月以上の研修を行います。

本研修プログラム3年間の臨床経験の蓄積で、日本外科学会外科専門医を取得します。豊富な症例で診断、治療に必要な知識と経験を得ることができ、多数の症例の中には各疾患の典型的な症例のみではなく希な病態や疾患も含まれおり、様々な臨床経験を積むことができます。

過去数年間に横浜市立市民病院外科の後期研修医が年間に経験した手術数は1年目～3年目までで異なりますが、術者としておおよそ100～140件(2012～2014年実数値)で、3年間で十分な日本外科学会専門医取得に必要な手術症例（術者として120例以上、手術手技経験数350症例以上）を経験できます。

また、豊富な経験から得た知見を学会や論文で発表する機会があります。

外科専門医の取得には腹部、乳腺外科以外の領域の症例経験が必要です。初期研修でこれらを経験していない場合には当院の心臓血管外科、呼吸器外科などでの研修を行うこともできます。

- 専門研修の3年間の1年目、2年目、3年目には、それぞれ医師に求められる基本的診療能力・態度（コアコンピテンシー）と外科専門研修プログラム整備基準にもとづいた外科専門医に求められる知識・技術の習得目標を設定し、その年度の終わりに達成度を評価して、専門医としての実力をつけていくように配慮します。具体的な評価方法は後に示します。
- サブスペシャルティ領域によっては外科専門研修を修了し、外科専門医資格を習得した年の年度初めに遡ってサブスペシャルティ領域専門研修の開始と認める場合があります。
- 初期臨床研修期間中に外科専門研修基幹施設ないし連携施設で経験した症例（NCDに認めた症例）に限定して、手術症例数に加算することができます。

2) 年次毎の専門研修計画

- 本研修プログラムでは専攻医の研修は、毎年の達成目標と達成度を評価しながら進められます。以下に年次毎の研修内容・習得目標の目安を示します。なお、習得すべき専門知識や技能は専攻医研修マニュアルを参照してください。
- 専門研修1年目では、基本的診療能力および外科基本的知識と技能の習得を目標とします。専攻医は定期的開催されるカンファレンス、院内主催のセミナー、各種学会などに参加、e-learning、書籍、論文、日本外科学会のビデオライブラリーなどを通して自らも専門知識・技能の習得を図ります。
- 専門研修2年目では、基本的診療能力の向上に加えて、外科基本的知識・技能を実際の診断・治療へ応用する力量を養うことを目標とします。専攻医はさらに学会・研究会への参加などを通して専門知識・技能の習得を図ります。
- 専門研修3年目では、チーム医療において責任を持って診療にあたり、後進の指導にも参画し、外科の実践的知識・技能の習得により様々な外科疾患へ対応する力量を養うことを目標とします。カリキュラムを習得したと認められる専攻医には、積極的にサブスペシャルティ領域専門医取得に向けた技能研修へ進みます。

本専門研修プログラムでの3年間の施設群ローテーションにおける研修内容と予想される経験症例数を下記に示します。どのコースであっても内容と経験症例

数に偏り、不公平がないように十分配慮します。

本研修プログラムの研修期間は3年間としますが、習得が不十分な場合は習得できるまで期間を延長します（未修了）。

・専門研修1年目

横浜市立市民病院外科に所属し研修を行います。

手術：鼠径ヘルニア、虫垂炎、開腹右側結腸切除、S状結腸切除、前方切除術、小腸部分切除、開腹幽門側胃切除、腹腔鏡下胆嚢摘出術、上部消化管穿孔手術、人工肛門造設、人工肛門閉鎖

検査：注腸造影検査、上部消化管内視鏡検査

手技：中心静脈カテーテル挿入

経験症例 120 例以上（術者 30 例以上）

・専門研修2年目

主に、横浜市立市民病院に所属し、消化器外科、炎症性腸疾患科、呼吸器外科、心臓血管外科、乳腺外科をローテーションします。3～9か月を連携施設に所属し研修を行います。（プログラムのバランスによっては連携施設での研修が3年目となる場合や一部のローテーションが3年目になる場合があります。）

経験症例 250 例以上／2年（術者 100 例以上／2年）

・専門研修3年目

主に、横浜市立市民病院に所属し、不足症例などに関して各領域や連携施設をローテートします。サブスペシャリティ領域（消化器外科，心臓血管外科，呼吸器外科，乳腺外科）の専門研修を開始します。

3) 研修の週間計画

【横浜市立市民病院（基幹施設）】

【外科（消化器外科、乳腺外科、炎症性腸疾患科）】

手術日：月曜日から金曜日まで毎日。

外来日：月曜日から金曜日までそれぞれ、初診外来、専門外来、予約外来。

専攻医は週1日、外来を担当。

月曜日：午前8時～9時 前週に施行した手術例の報告を中心としたカンファランス（病理合同）

月曜日：午前 消化管造影検査

水曜日：午前8時～9時 翌週火曜日までの予定手術症例と問題症例についてのカンファランス（放射線科医合同）。カンファランス後に部長回診。

水曜日：午前 上部消化管内視鏡検査

午後 下部消化管内視鏡検査、注腸造影検査

【呼吸器外科】

	月	火	水	木	金
午前	手術 病棟処置	病棟処置 外来	手術 病棟処置	手術 病棟処置	病棟処置 外来
午後	手術 カンファラ ンス	病棟処置 カンファラン ス	手術 病棟処置	手術 病棟処置	検査
その他			病理カンファ ラス		

【心臓血管外科】

	月	火	水	木	金
午前	病棟加療 外来診療	手術 病棟加療	手術 病棟加療、検査	手術 病棟加療	手術 病棟加療
午後	病棟加療 外来診療	手術 病棟加療	病棟加療 外来診療	手術 病棟加療	病棟カンフ ァランス 術前カンフ ァランス
その他	循環器内科 とのカンフ ァランス		病理カンファ ラス		

【松島病院（連携施設）】

	月	火	水	木	金	土
午前	カンファ レンス 外来	カンファ レンス 手術	カンファ レンス 病棟回診	カンファ レンス 外来	カンファ レンス 手術	カンファ レンス 検査
午後	検査	外来	検査	外来	検査	外来
その他				症例検討 会	勉強会	勉強会

※カンファレンス

月および土：7時45分～8時30分

火～金：8時00分～8時30分

- ・検査：内視鏡、超音波検査

- ・勉強会：2か月に1回の頻度で開催予定

【埼玉医科大学国際医療センター（連携施設）】

	月	火	水	木	金	土
午前	カンファ レンス 手術	カンファ レンス 手術	カンファレ ンス 手術	カンファレ ンス 手術	カンファ レンス 手術	カンファ レンス 手術
午後	病棟業務 回診	病棟業務 回診	病棟業務 回診	病棟業務 回診	病棟業務 回診	
その他						

※カンファレンス

月曜日：チームカンファレンス

火曜日：上部消化管合同カンファレンス・チームカンファレンス

水曜日：消化器腫瘍科合同カンファレンス・チームカンファレンス

木曜日：下部消化管合同カンファレンス・チームカンファレンス

金曜日：肝胆膵合同カンファレンス・チームカンファレンス

土曜日：チームカンファレンス

5. 専攻医の到達目標

□ 専攻医研修マニュアルの到達目標 1（専門知識）、到達目標 2（専門技能）、到達目標 3（学問的姿勢）、到達目標 4（倫理性、社会性など）に準じます。

6. 各種カンファレンスなどによる知識・技能の習得

横浜市立市民病院では前掲のような放射線診断科、病理医が参加するカンファレンスに加え、院内で各種クルズス、病棟内症例検討会、解剖症例検討会、cancer board、地域医療施設との勉強会などが開かれています。また、定期的に医療安全管理研修会、院内感染対策研修会などが開催されており、これらに参加します。

□ 横浜市立市民病院、連携施設で行う医師および看護師、コメディカルによるカンファレンスに参加し、診断、治療および管理方針などについて、他の医師や他職種の意見を聴き、自らの意見を述べることにより、より実践的で具体的な治療と管理の論理を学びます。

□ 上述の様にカンファレンスには放射線診断科医師、病理診断科医師が参加しており、ここで手術症例を中心に放射線診断科とともに術前画像診断の検討や切除標本の病理診断と対比を行い、必要に応じて組織像との対比も行います。

- 定期的に開催されている **cancer board** に参加し、複数の臓器に広がる進行・再発例や、重症の合併症を有する症例、非常に稀で標準治療がない症例などの治療方針決定について、内科をはじめとする関連診療科、病理診断科、放射線診断科、緩和、看護スタッフなどと検討し、具体的な治療と管理の論理を学びます。
- 基幹施設と連携施設による症例検討会や研修発表会で発表を行い、発表の内容や方法などについて他の医師から質問や意見を受けて討論を行います。
- 各施設において抄読会や勉強会を実施します。専攻医は最新のガイドラインを参照するとともに図書館やインターネットを利用して情報検索を行います。
- 日本外科学会の学術集会（特に教育プログラム）、**e-learning**、各種研修セミナー、外科系関連学会、各病院内で実施される講習会などで標準的医療および今後期待される先進的医療や医療倫理、医療安全、院内感染対策を学びます。

7. 学問的姿勢について

専攻医は、医学・医療の進歩に遅れることなく、常に研鑽、自己学習することが求められます。患者の日常的診療から浮かび上がるクリニカルクエスチョンを日々の学習により解決し、今日のエビデンスでは解決し得ない問題は臨床研究に自ら参加、もしくは企画する事で解決しようとする姿勢を身につけます。日本外科学会定期学術集会（1回以上）やサブスペシャリティの学会に積極的に参加し、学術集会や学術出版物に、筆頭者として症例報告や臨床研究の結果を発表し、公に広めるとともに批評を受ける姿勢を身につけます。

8. 医師に必要なコアコンピテンシー、倫理性、社会性などについて

専攻医研修マニュアル - 到達目標 3 に準じ、医師としての態度、倫理性、社会性を高め、社会に貢献する医師としての資質を身につけます。

9. 施設群による研修プログラムおよび地域医療についての考え方

1) 施設群による研修

本研修プログラムでは横浜市立市民病院を基幹施設とし、連携施設として埼玉医科大学国際医療センター、地域の連携施設である松島病院とともに病院施設群を構成してします。専攻医はこれらの施設群をローテートし、多彩で偏りのない充実した研修を行います。横浜市立市民病院外科研修プログラムではどの専攻医も指導内容や経験症例数に不公平が無いよう配慮します。施設群における研修の順序、期間等については、専攻医数や個々の専攻医の希望と研修進捗状況、各病院の状況、地域の医療体制を勘案して、横浜市立市民病院外科専門研修

プログラム管理委員会が決定します。

2) 地域医療の経験

地域の連携病院では責任を持って多くの症例を経験することができます。また、地域医療における病診・病病連携、地域包括ケア、在宅医療などの意義について学ぶことができます。以下に本研修プログラムにおける地域医療についてまとめます。

- 本研修プログラムには、地域医療支援病院である横浜市立市民病院が基幹型病院となっており、また神奈川県内における地域医療の一端を担っている松島病院が連携施設として入っています。そのため、研修中に以下の地域医療の研修が可能です。
- 地域の医療資源や救急体制について把握し、地域の特性に応じた病診連携、病病連携のあり方について理解して実践します。
- 消化器がん患者の緩和ケアなど、ADLの低下した患者に対して、在宅医療や緩和ケア専門施設などを活用した医療を立案します。

10. 専門研修の評価について（専攻医研修マニュアル-VI-参照）

専門研修の1年目、2年目、3年目のそれぞれに、コアコンピテンシーと外科専門医に求められる知識・技能の習得目標を設定し、その年度の終わりに達成度を評価します。このことにより、基本から応用へ、さらに専門医として独立して実践できるまで着実に実力をつけていくように配慮しています。専攻医研修マニュアルVIを参照してください。

11. 専門研修プログラム管理委員会について

基幹施設である横浜市立市民病院には、専門研修プログラム管理委員会と、専門研修プログラム統括責任者を置きます。連携施設群には、専門研修プログラム連携施設担当者と専門研修プログラム委員会組織が置かれます。横浜市立市民病院外科専門研修プログラム管理委員会は、専門研修プログラム統括責任者（委員長）、事務局代表者、外科の3つの専門分野（消化器外科、心臓血管外科、呼吸器外科）の研修指導責任者および連携施設担当委員などで構成されます。研修プログラムの改善へ向けての会議には専門医取得後の若手医師代表が加わることができます。専門研修プログラム管理委員会は、専攻医および専門研修プログラム全般の管理と、専門研修プログラムの継続的改良を行います。

12. 専攻医の就業環境について

- 1) 専門研修基幹施設および連携施設の外科責任者は専攻医の労働環境改善に努めます。

2) 専門研修プログラム統括責任者または専門研修指導医は専攻医のメンタルヘルスに配慮します。

3) 専攻医の勤務時間、当直、給与、休日は労働基準法に準じて各専門研修基幹施設、各専門研修連携施設の施設規定に従います。

1 3. 修了判定について

3年間の研修期間における年次毎の評価表および3年間の実地経験目録に基づいて、知識・技能・態度が専門医試験を受けるのにふさわしいものであるかどうか、症例経験数が日本専門医機構の外科領域研修委員会が要求する内容を満たしているものであるかどうかを、専門医認定申請年（3年目あるいはそれ以後）の3月末に研修プログラム統括責任者または研修連携施設担当者が研修プログラム管理委員会において評価し、研修プログラム統括責任者が修了の判定をします。

1 4. 外科研修の休止・中断、プログラム移動、プログラム外研修の条件
専攻医研修マニュアル VIII を参照してください。

1 5. 専門研修実績記録システム、マニュアル等について

【研修実績および評価の記録】

外科学会のホームページにある書式（専攻医研修マニュアル、研修目標達成度評価報告用紙、専攻医研修実績記録、専攻医指導評価記録）を用いて、専攻医は研修実績（NCD登録）を記載し、指導医による形成的評価、フィードバックを受けます。総括的評価は外科専門研修プログラム整備基準に沿って、少なくとも年1回行います。

横浜市立市民病院で、専攻医の研修履歴（研修施設、期間、担当した専門研修指導医）、研修実績、研修評価を保管します。さらに専攻医による専門研修施設および専門研修プログラムに対する評価も保管します。

プログラム運用マニュアルは以下の専攻医研修マニュアルと指導者マニュアルを用います。

- 専攻医研修マニュアル

別紙「専攻医研修マニュアル」参照。

- 指導者マニュアル

別紙「指導医マニュアル」参照。

- 専攻医研修実績記録フォーマット

「専攻医研修実績記録」に研修実績を記録し、手術症例はNCDに登録します。

●指導医による指導とフィードバックの記録

「専攻医研修実績記録」に指導医による形成的評価を記録します。

16. 専攻医の採用と修了

※最新の採用情報は当院ホームページに記載いたしますが、平成29年9月上旬時点での採用方法は以下の通りです。

【採用方法】

横浜市立市民病院外科専門研修プログラム管理委員会は、毎年7月から説明会等を行い、外科専攻医を募集します。プログラムへの応募者は、研修プログラム責任者宛に所定の形式の『横浜市立市民病院外科専門研修プログラム応募申請書』および履歴書を提出してください。

申請書は

(1)HP：当院の website(<http://yokohama-shiminhosp.jp/>)よりダウンロード

(2)電話で問い合わせ：総務課職員係 (045-331-1817)

(3)e-mail で問い合わせ：総務課職員係 (by-kenshui@city.yokohama.jp)

のいずれの方法でも入手可能です。原則として10～11月中に書類選考および面接を行い、採否を決定して本人に通知します。

(二次選考については詳細未定)

【研修開始届け】

研修を開始した専攻医は、各年度の5月31日までに以下の専攻医氏名報告書を、日本外科学会事務局(senmoni@jssoc.or.jp)および、外科研修委員会に提出します。

- ・専攻医の氏名と医籍登録番号、日本外科学会会員番号、専攻医の卒業年度
- ・専攻医の履歴書（様式15-3号）
- ・専攻医の初期研修修了証

【修了要件】

専攻医研修マニュアル参照